

早稲田大学 オープンカレッジ 2019年12月14日

観光資源としての文化景観

自然への適応が生んだ文化景観

【寄藤 昂】

はじめに

「文化景観」と言っても、実は自然環境と密接に関わっている。なぜならば、人々は生きるため、より良い暮らしを求めて自然を知り、適応することに取り組んできたのであり、それこそが「文化」だからである。

例えば、各地に見られる集落を囲む「防風林・防砂林」や「屋敷林」さらには急傾斜地に造られた「棚田」などが典型である。ここでは、そのような自然と人間の営みが生み出した文化景観の例をとりあげ、観光資源としての意味・価値等について考える。

■ 対象とした地域



1. 風の松原 秋田県能代市

- 砂丘・砂州は元々未利用地であった
- そこから飛来する「砂」は農業・生活の大敵であった
- 西日本では古くから、東北地方でも江戸後期から松の植林
- 江戸末期から明治にかけて荒廃した例が多いがその後復活
- 今日では観光資源に

1.1 風の松原とは

能代市の海岸沿いに連なる「風の松原」は日本最大級の松林である。

東西幅 1 km、南北総延長 14km、面積約 760ha。厳しい海風による飛砂を防ぐために江戸時代から 植栽されてきたもので、今では700万本もの見事な松林である。

風の松原はこれまで「能代海岸防砂林」または単に「砂防林」などと呼ばれ、市民のレクリエーションの場として利用される程度であったが、全国的にも例のない規模の雄大さ、美しい景観が内外から高い評価を受けるようになったことから、改めて愛称を公募、昭和 62 年 12 月から「風の松原」と呼ぶことになった。

風の松原の歩み

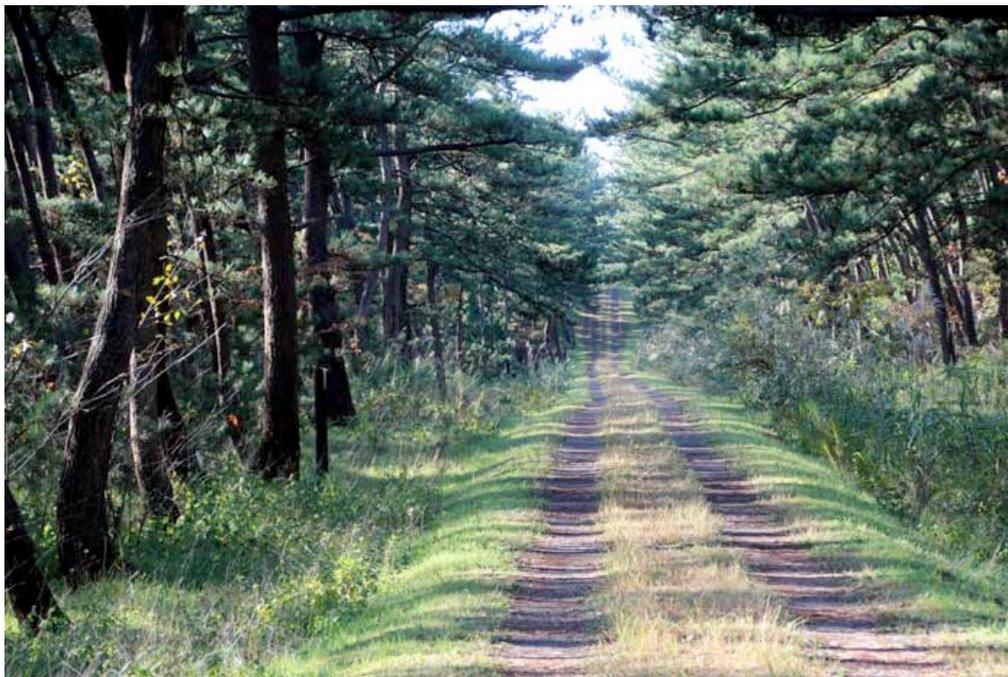
- 1711年 回船問屋、越後屋太郎右工門、自費で黒松植栽。
- 1724年 出戸町、鍛冶町、新町（当時の能代中心部）飛砂で埋まる。
- 1797年 郡方砂留吟味役、栗田定之丞、海岸砂防林の植栽に着手。
- 1822年 能代木山方賀藤景林、砂防林造成も担当。
- 1833年 賀藤景林、この年までに76万本植栽。
- 1858年 景林の子、景琴この年まで30万本植栽。
- 1942年 能代営林署開設。
- 1987年 市の公募により「風の松原」、いこいの広場等の整備開始。
- 1999年 松くい虫が後谷地国国有林に侵入し被害発生。
- 2006年 風の松原ガイド養成講座開始。08年ガイドの会発足。

1.2 地図で見る風の松原





1.3 風の松原の景観



1.4 観光開発



2. 「いぐね（居久根）」 宮城県仙台市・名取市

居久根は、北関東から東北地方太平洋側、特に宮城県を中心にした地域の屋敷林の呼称。居=家、久根=地境・屋敷境の意味がある。主として屋敷の北西側に配置され、高木が居久根の骨格として高さ20m以上に達するものもある。居久根にやってくる鳥が種子を運ぶため中低木の種類も豊富。

水田地帯に緑の浮島のように見える「いぐね」は、先祖代々から引き継がれた農村での暮らしの知恵であり、植えられている樹木は建築用材となるケヤキ、クリ、スギ、カシ、ヒバなど、食料となるようにクルミ、ウメ、イチヨウなども混じる。

防ぐ

防風、防雪、防砂、防潮、
防塵、防火、防犯、洪水対策

住みやすくする

夏は植物の蒸散によって周囲の
気温を下げる。冬は冷たい季節風
を防ぎ、日溜りの中庭は暖かい。

裏山として

燃料、肥料、用材、食料の
供給

目印と物差し

隣家との境界。大きさに
よって家の歴史を判断す
る時間指標。



2.1 歴史の中のいぐね

昭和前半の居久根 多くが専業農家、自給自足の暮らし

エネルギー源として落ち葉や枝、木を薪に

家を建てる建材ともなった。

孫に「切って家を建てて欲しい」

果樹を食べた（柿、栗、キイチゴ）

家畜を放し飼いにしていた

北風や西風、砂が舞うのを抑えた

緑が鬱蒼と茂って「もののけ」を感じる風景

管理は当時から手間だった



1936年(S11)の南蒲生



*出典:『高砂の歴史』
寺嶋修二 1984年

昭和後半 居久根の役割が変わり始める

落ち葉を使わなくなっていった（燃料の転換）

居久根を建材に使わなくなった。新築しても植えなかった

居久根の果樹を食べた

ブロック塀の登場、住宅の高機能化

居久根で台風や強風から農作物を守った

居久根のある景色は生まれた時から当たり前

居久根の管理の負担が大きかった

管理できている家とできていない家があった

平成と震災 震災を機に居久根のある暮らしを再考

ガスと薪を兼用（灰小屋を共同で利用）

津波で枯れた居久根を切った

震災により倒れた木でチェーンソーアート

居久根で津波から家が守られた

居久根がなくなり、隣近所が見えてしまう

北風を防ぐものがない。風で家が揺れる

震災後に外との交流の機会が増えた

今になって昔は緑が多かったことを感じる

2.2 仙台市若林区長喜城

長喜城は、中世の豪族である沖野氏らがこの地に館を築き、“喜びに満ちた不朽の城であるように”との願いを込めて命名した屋敷名が、今日では地名として伝え残されているものと言われている。

長喜城には「いぐね」に囲まれた数軒の屋敷がまとまって点在している。



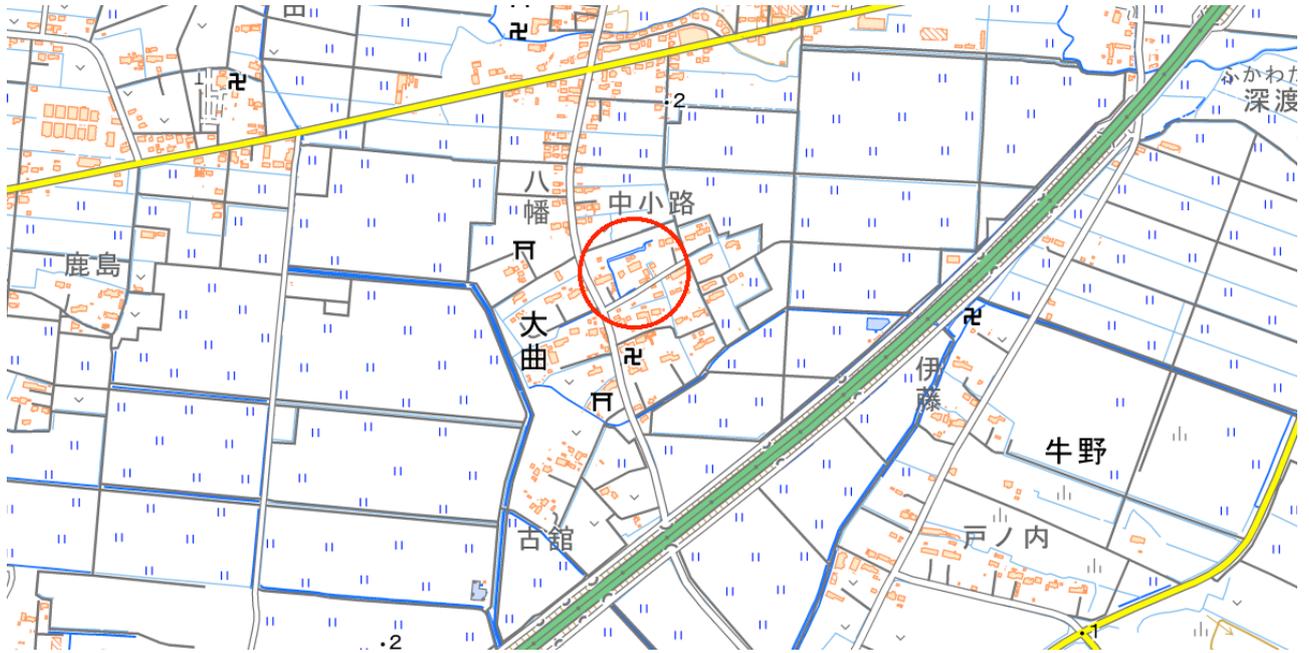




2.2 名取市 洞口（ほらぐち）家住宅

江戸時代の中頃・宝暦年間(1751～1763年)に建てられたとされる旧家、国の有形重要文化財の指定を受けている。

1,500坪以上の敷地をいぐね（防風林）と幅3mの堀で囲む近世の環濠大型古民家。母屋は寄棟造、茅葺、建物内部は座敷(茶の間)と土間の仕切りが無い四間取り(田ノ字型)という特徴的なもので「名取型」と呼ばれる。洞口家はこの形式では旧仙台領内最大規模。



鹿島

八幡
戸

中小路

大曲
戸

古館

伊藤
戸

牛野

戸ノ内

かわた
深渡





3. 奥能登の間垣 石川県輪島市

強い季節風や吹雪、飛砂などから家を守るために、屋敷林とは別の方法として「間垣」や「かっちょ」などと呼ばれる方法がある。

それらはいずれも、竹材や木材で遮蔽物となる「塀」を建てるもので、冬季のみ設置して取り外す形と通年で設置する形がある。

3.1 間垣の構造

長さ約 3 メートルのニガ竹という細い竹をびっしりと隙間なく並べ、たこ糸で固く結んでいる。竹垣を支える柱と梁の部分はアテの木を使い、地中に埋める部分は腐食を防ぐために表面を焼いて炭化させている。

柱や梁の耐用年数は 30 年から 50 年と言われるが、竹については劣化が激しく、毎年の手入れが必要である。

竹垣には、それぞれの家に出入りできるように切り取り部分が設けられている。

日本海沿いの集落では、このような風よけの垣根を比較的見ることができるとは、板張りのものが多く、竹でつくられる間垣は珍しい。

3.2 間垣の景観 輪島市大沢町・上大沢町









上記5葉の写真は、多田屋六代目多田健太郎氏による

4. 丸山千枚田 三重県熊野市（旧紀和町）

紀伊半島山中にある日本最大級の棚田。1601年（慶長6年）の検地帳には2240枚の田畑があったと記録されているが、平成初期には後継者不足等により530枚まで減少していた。平成6年に「丸山千枚田条例」の制定、その後の事業で耕作放棄田の810枚（2.4ha）が復元された。地元農家が耕作する530枚（4.6ha）と合わせた棚田は1,340枚（7ha）。

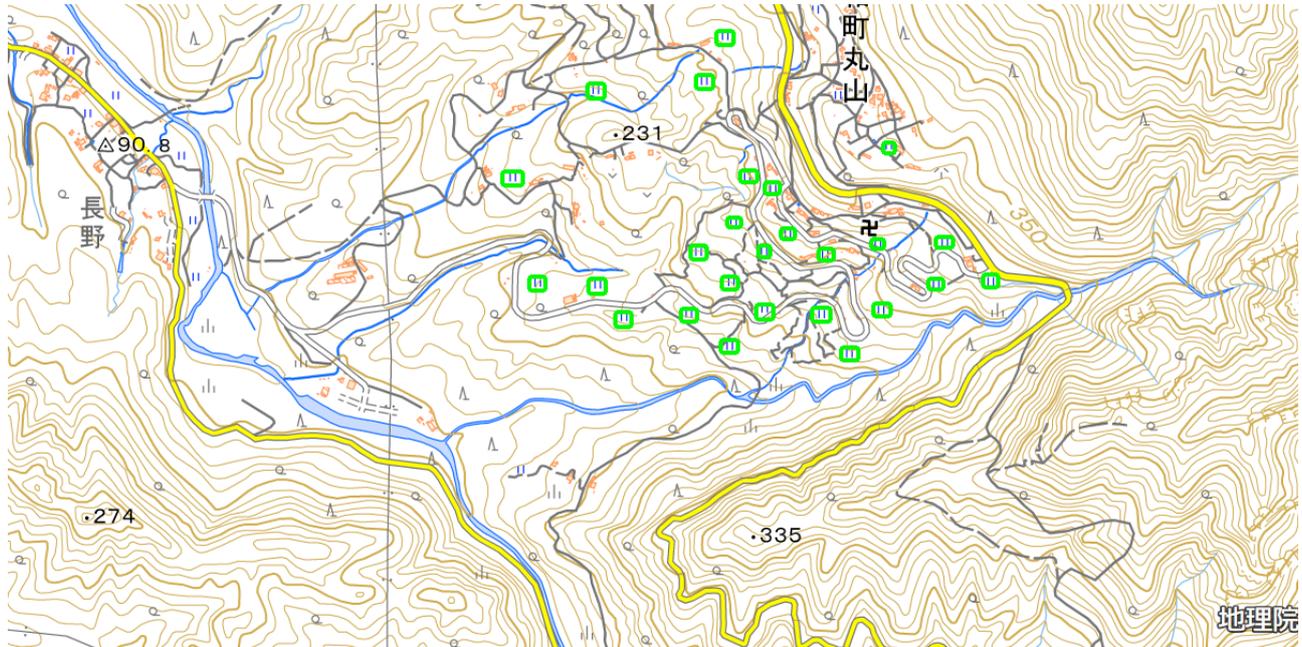
復田された田を利用して、丸山千枚田オーナー制度が実施されており、毎年100組を超えるオーナーが登録している。年間を通して稲作体験が行われ、都市住民との交流と棚田保全活動を結びつけて地域振興を図っている。

現状では営農農家数が20戸あまりと減少し、蕎麦の栽培、蕎麦打ち体験ツアーなども併せた観光収入に依存する状況となっている。

4.1 丸山千枚田の特徴

石垣で築かれたこの棚田の段数は、100 段近くある。四分の一勾配（水平距離 4m 行って 1m 高くなる \approx 14 度）という急傾斜で、上の田から下の田までの標高差は 100m もある。また極めて狭小な田があるのも特徴である。

4.2 地図で見る丸山千枚田





4.3 丸山千枚田の景観





5. 白米（しろよね）千枚田 石川県輪島市

石川県輪島市白米町にある棚田。

日本海に面して、小さな田が重なり海岸まで続く特徴的な景観であり、日本の棚田百選、国指定文化財名勝に指定（2001）され、また2011年6月、国連食糧農業機関（FAO）が認定した世界農業遺産にも選定された。

水田一面あたりの面積は約18平方メートルと狭小で、約4ヘクタールの範囲に1004枚の典型的な棚田風景が展開している。

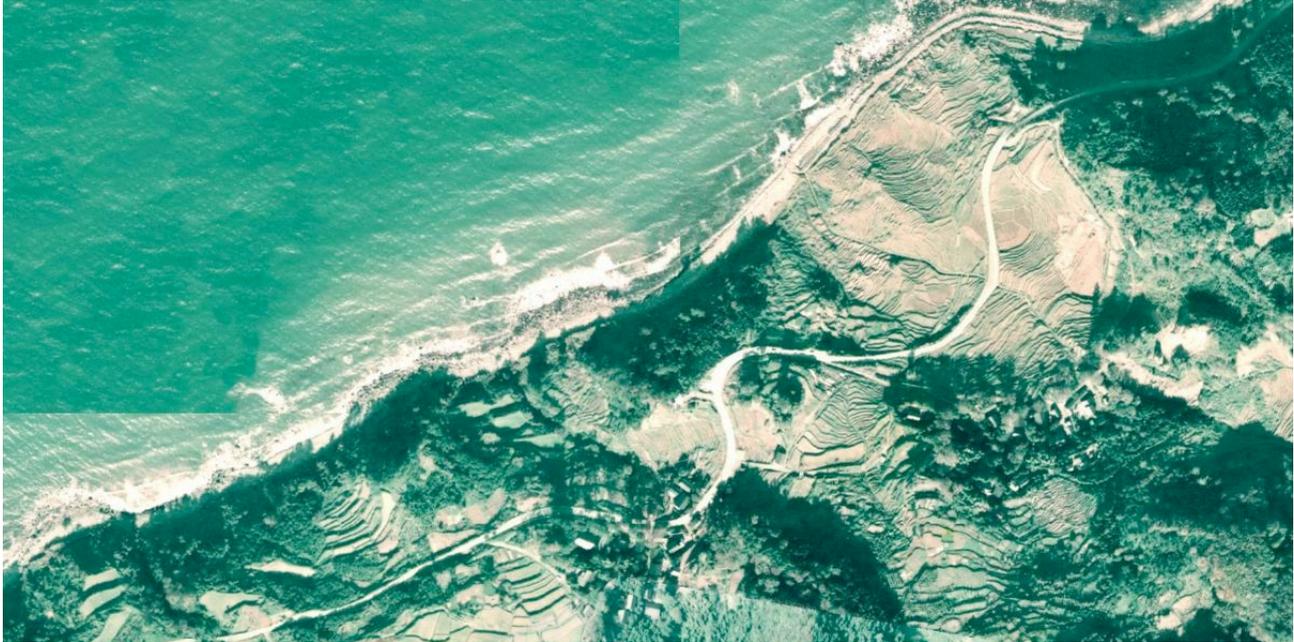
5.1 白米千枚田の特徴

最大の特徴は海に近接していることであり、美しい能登の海と棚田を同時に視界に収める古都ができる。また、先の丸山千枚田などに比べて傾斜が緩く、散策にも無理がない。

現在も稲作を続けているが、農閑期の10月～3月の間、あぜ道にソーラー電源のLEDライトを設置して観光資源としている。

5.2 地図で見る白米千枚田





5.3 白米千枚田の景観







資料

■ 風の松原 秋田県能代市

能代市HP

<https://www.city.noshiro.akita.jp/c.html?seq=1103>

森と水の郷あきたHP 緑の遺産1風の松原

<http://www.forest-akita.jp/data/field/kaze/kaze.html>

■ いぐね 宮城県仙台市・名取市

仙台市HP 名所一覧「長喜城のいぐね」

<http://www.city.sendai.jp/ryokuchihozen/mesho100sen/ichiran/058.html>

仙台市HP 居久根の保全や再生

<http://www.city.sendai.jp/ryokuchihozen/kurashi/shizen/midori/hyakunen/hozen.html>

名取市観光物産協会HP 洞口家住宅

<https://www.kankou.natori.miyagi.jp/kankou/320>

■ 間垣 石川県輪島市

輪島市HP 「大沢・上大沢の間垣集落景観」

<https://www.city.wajima.ishikawa.jp/docs/2016042800025/>

公益社団法人全国漁港漁場協会HP 漁港百選「奥能登の間垣」
<http://www.gyokou.or.jp/100sen/pdf/04chubu/052.pdf>

多田屋旅館HP のとつづり・能登の風景「間垣の里」
<https://tadaya.net/nototsuduri/landscape/detail24/>

■ 丸山千枚田 三重県熊野市

熊野市観光公社HP 「丸山千枚田」
<http://kumano-kankou.com/?p=61>

日本の棚田百選
<http://www.acres.or.jp/Acres20030602/tanada/index.htm>

■ 白米千枚田 石川県輪島市

輪島市HP 「白米千枚田」
<http://senmaida.wajima-kankou.jp>

多田屋旅館HP のとつづり・能登の風景「白米千枚田」
<https://tadaya.net/nototsuduri/landscape/detail1/>